

## 四旬節 2020 年



親愛なる姉妹の皆さま

四旬節は、回心の典礼に導かれる時期です。教会は、私たちに主のご復活の大きな祭日に備えて準備するよう招いています。私たちの過ちを悔い改め、私たちの何かをより良くし、キリストにより近く生きることができる者とさせる時です。

四旬節において、キリストは、私たちに生活を変えるよう勧めています。教会は、私たちをイエス・キリストへと向かうあゆみをするよう招いています。それは、神の言葉に耳を傾け、祈り、他の人と分かち合い、そして良い行いをすることによって行われます。そのことが四旬節は、赦しと兄弟・姉妹たちとの和解の時である理由です。私たちは、日々の生活を通して、神と兄弟・姉妹たちへの愛に反する憎しみ、恨み、ねたみ、そして、嫉妬心を根こそぎにしなければなりません。

私たちは、一般的に回心について話すとき、ほとんど直感的に、悲しい、つらい、苦行によく似ている苦難、そして禁欲に近い何かを本能的に考えてしまいます。決して目標に達することができないことから、ユーモアや活力を感じなくなった無駄な努力になりがちです。

しかしながら、イエスのメッセージに立ち止まると、神が近づかれ、自己の生活を変えたい望みから、まず私たちの心を変え、より人間らしい生き方を学ぶようにという励ましの声が聞こえます。

イエスが語る回心は、強制されていません。神が私たちの生活をより人間的で幸せなものにしたいお方だということに気づくにつれて、私たちの中で成長していく変化です。そのために、回心は悲しげなものではなく、真の喜びを見い出します。それは生きるのをあきらめさせるのではなく、かつてないほどの生き生きとしたものを感じさせます。どの方向に向かって生きるべきかを見い出しましょう。

回心するのは喜ばしいことです。それは私たちの日常生活の大切なものを忘れさせる私たちの利己心と関心を清めるからです。権力と所有からの欲望によって生じた苦悩と複雑な心から解放します。必要のないものから自由になり、必要な人のために生きます。

私たちにとって大切なことは、どのようにして、ものを手に入れることができるかを自問するのではないことに気づいたとき、私たちは、回心へと導かれます。しかし、どうすれば自分自身になれるのでしょうか。

「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言うイエスの呼びかけを耳にしたとき、回心するのに遅すぎることはありません。それは愛することに遅すぎないし、幸せになるのにも遅すぎない、神によって赦され、新たにされることにも遅すぎることはないからです。

母であり、私たちを導く方法を知っておられる聖母マリアに委ねましょう。特にこのいつくしみの時期に、彼女に導いていただきましょう。

ご復活おめでとうございます。

姉妹的抱擁を込めて、

Sor M<sup>a</sup> Asunción González, OP  
Piora General